

はじめてのおかいもの おしえて いー(Ree)ちゃん

この絵本は、暮らしの中のごみについて、
子どもたちに関心をもってもらうために
作成しました。
絵本をとおして、子どもたちと一緒に
どうしたらごみを減らせるか
考えてみてください。



葛飾区ごみ減量・3R推進キャラクター
りー(Ree)ちゃん

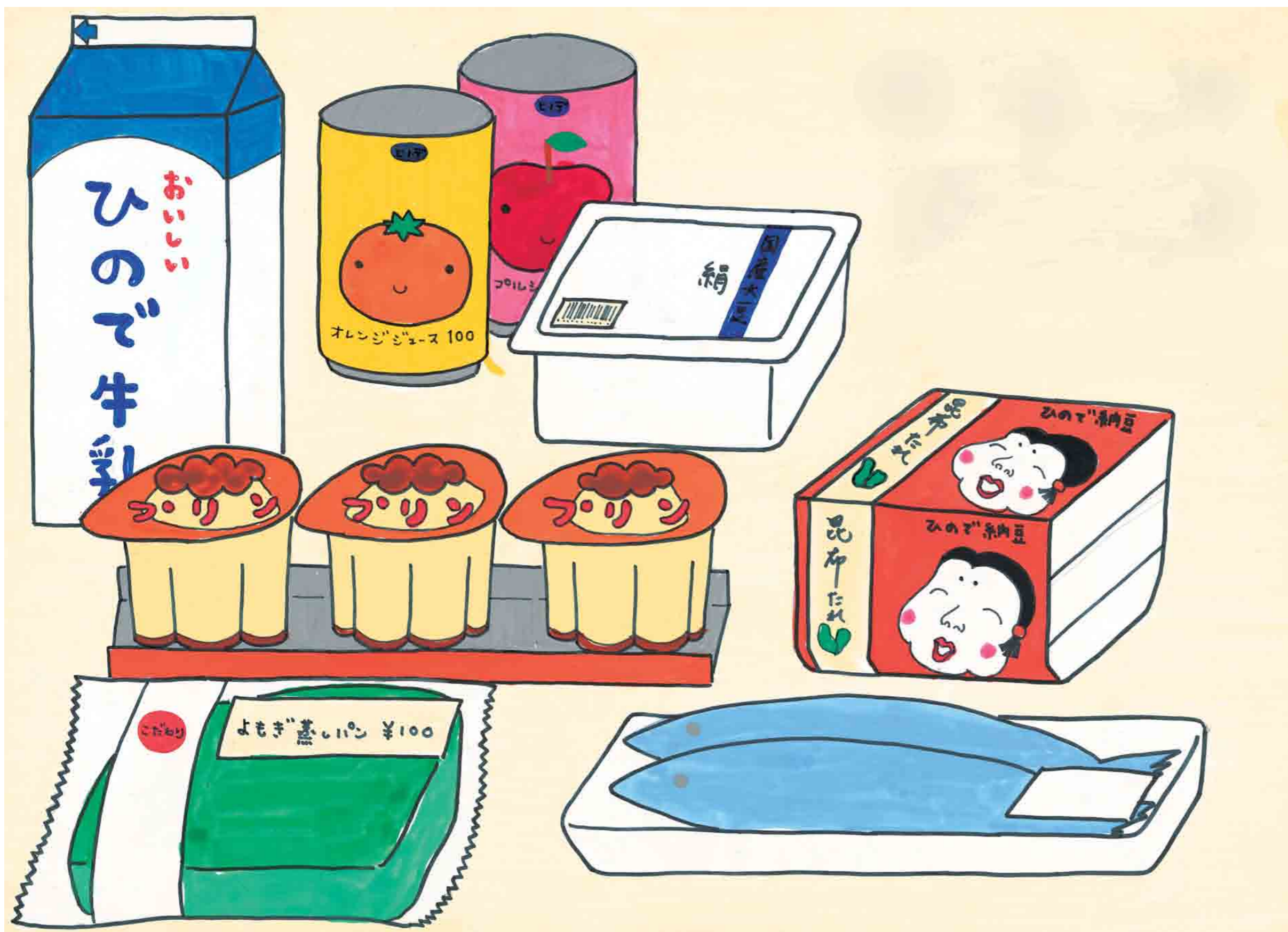


平成23年5月

発行 葛飾区環境部リサイクル清掃課
// 清掃事務所

協力 日の出保育園

この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。



おかあさんが
おかいものからかえってき
ました。

「ぎゅうにゅう、ジュース、
とうふ、プリン、なっとう、
ぱん、さかな・・・」

おかあさんは、
かってきたものを
かばんからだしてたしかめ
ています。

「あらっ！？
たまごをかいわすれてるわ。
まあたいへん、どうしましょ
う。」



「ゆきちゃん、けんくん、
たまごをかいわすれて
きちゃったわ。
でも、これからごはんを
つくりはじめないとけな
いからふたりでスーパ^ーへ
行って、たまごをかってき
てくれないかしら？」
とおかあさんが
ふたりにたのむと、
「はい。」「いいよ！」
「いってきま^ーす！！」と
ふたりとも
げんきよくへんじをして
スーパ^ーへでかけていきま
した。

すてればゴミ
いかせば資源

リサイクルに皆様のご協力をお願い
します



スーパーのいりぐちにおおきなはこがおいてありました。

「おねえちゃん、これなに？」

「なんだろう。」

あるみかん、…パック、…
トレイ、ペットボトルって
かいてあるけど…？」

「わかったよおねえちゃん！

これはごみばこだよ。

かんはかんのところ、ペッ
とほとるペットボトルって
かいてあるところにすて
ればいいんじゃないの？」

「あー、なるほど！

きっとそうだね。

でも…

どうしてべつべつのはこに
いれなきゃいけないのか
な？」



ふたりがくびをかしげていると・・・

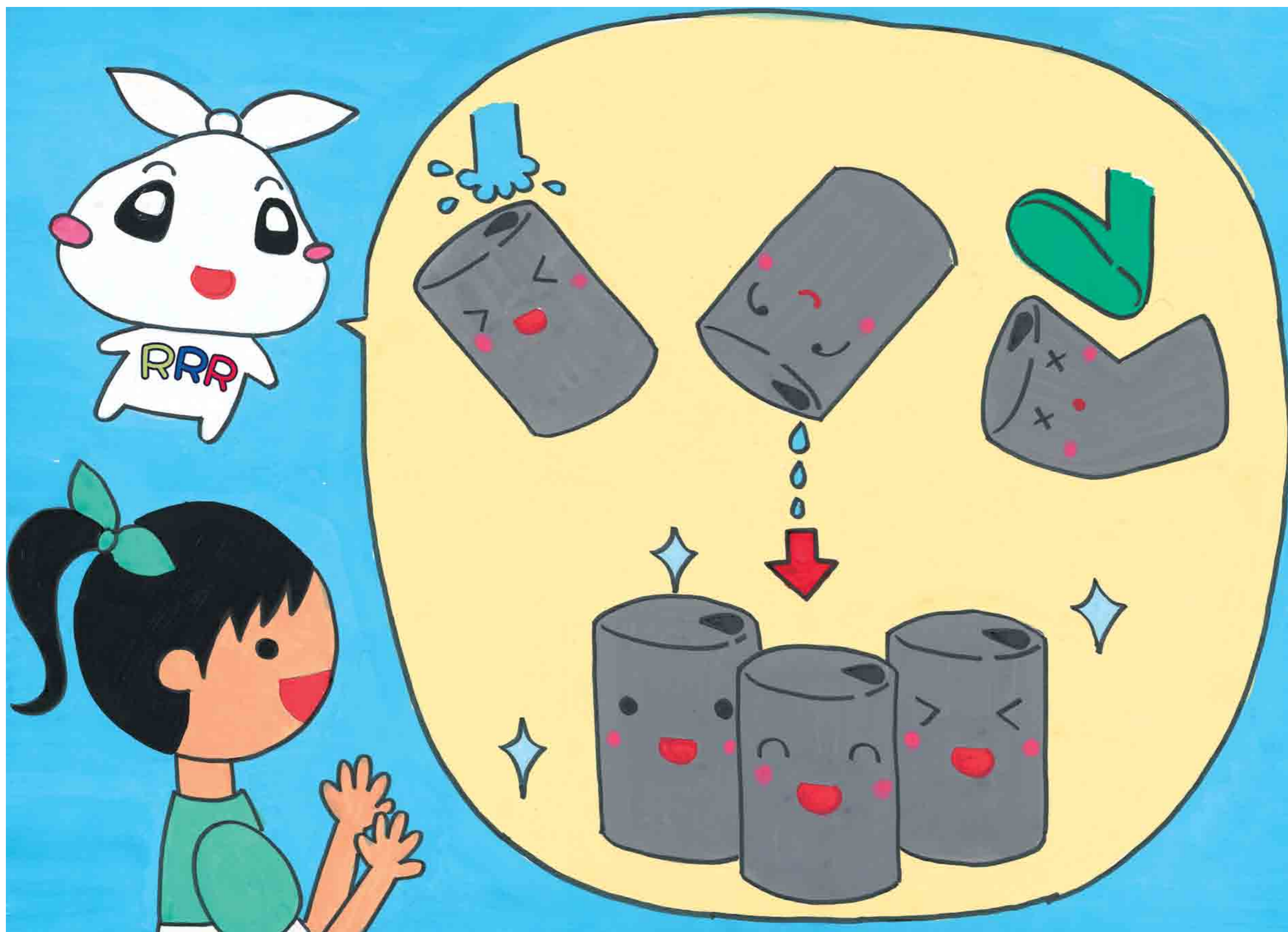
ぼわんっ

とつぜん、めのまえにりーちゃんがあられました。

「はじめまして！

『ごみ^{ぜろ}のくに』からきました、りーちゃんです。そのはこはごみばこじゃないんだよ。

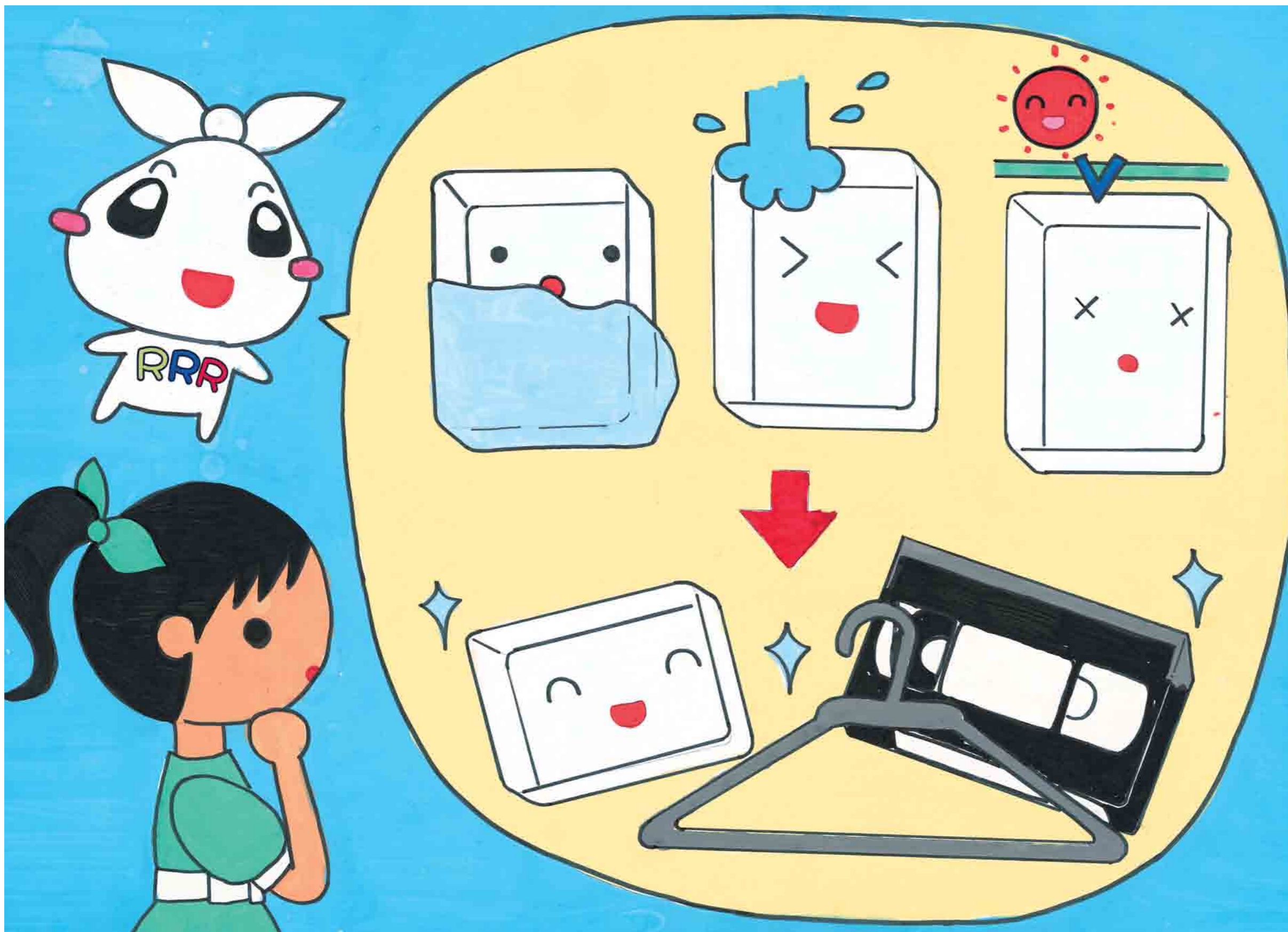
リ^りサイ^{さい}クル^{くる}ボ^ぼック^{っく}ス^すっていうんだ。か^かん^んや^やか^かみ^みパ^ぱック^{っく}、し^しょ^ょく^くひ^ひん^んト^とレ^れイ^い、ペ^ぺット^とボ^ぼトル^{とる}などをきちんとわけていければ、あたらしいものに生まれかわることができるんだよ。」



「へえ～、どんなものに
うまれかわるの？」と
ゆきちゃんがたずねると
「アルミかんは、きれいに
^{あるみ}あらって、かわかして、
あのはこにいれると、
こうじょうにはこばれて、
あたらしいかんにうまれか
わるんだ。」
とりーちゃんはこたえました。
すると、
ゆきちゃんはおどろいて、
さらに
「へえ～、じゃ、かみ^{ぱっく}
は？」
とききました。



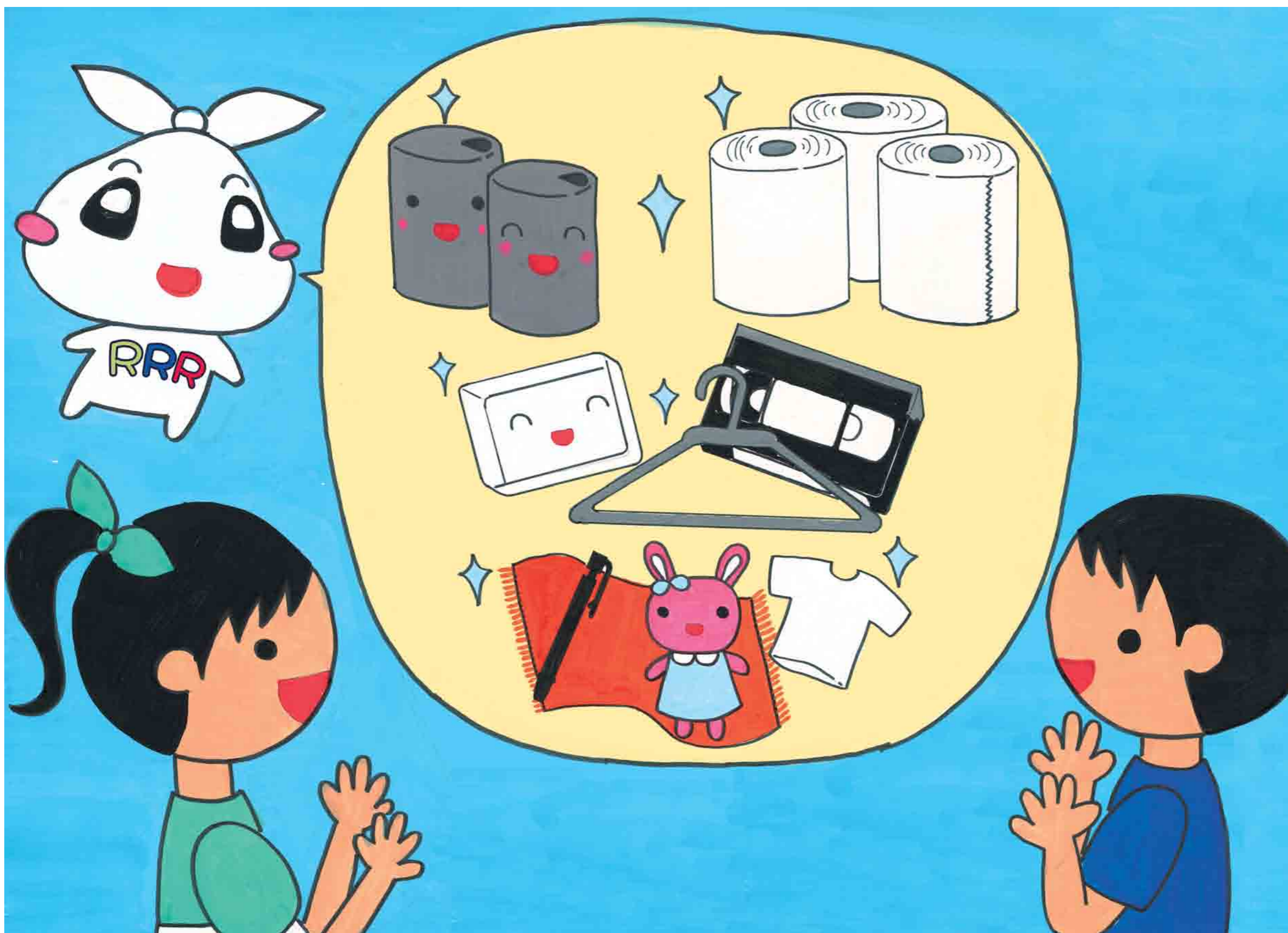
するとりーちゃんは
「かみ^{ぼっく}パックも
きれいにあらって、かわか
して、あのはこにいれるん
だ。そうすると、かみ^{ぼっく}
パックは^とイレット^とペーパーに
うまれかわるんだ。」
とおしえてあげました。
「へえ！すごいね。じゃあ、
しよくひん^{とれい}トレイは？」
とゆきちゃんは、つづけて
きいてみました。



「しよくひんと^{とれい}レイも
おなじように、あらってか
わかして、あのはこにいれ
ると、こうじょうにはこ
ばれて、おなじ^{とれい}トレイや
プラスチックのハンガー、
ビデオ^{びで}テープ^{おて}などにうまれ
かわるんだよ。」
とりーちゃんがおしえてあ
げると、ゆきちゃんは
「え〜！なんでそんなもの
にうまれかわっちゃうの？
ふしぎだなあ。」
とおどろきました。



「じゃあ、けんくん。
ペットボトルはなにになる
と思う？」と
りーちゃんはけんくんに
きいてみました。
「ペットボトルは、
キャップとラベルをはがし
て、あらって、かわかして
つぶすんだよね。
それで、あのはこにいれる
と、どうなるんだろう？」
とけんくんはふしぎそうで
す。
「ペットボトルは、ふくやぬ
いぐるみ、ペン、じゅうたん
などにもなるんだよ。」
とりーちゃんがおしえてあ
げると
「ええー!?すごいんだね。」
とけんくんはおどろきまし
た。



そうです。
みんながリサイクルできる
ものをきちんとわけてだ
してくれば、あたらしい
ものに生まれかわること
ができるのです。
りーちゃんがおしえてくれ
なければ、ゆきちゃんと
けんくんは、ごみといっ
しょにすててしまうところ
でした。



「わたしのいえでは、しょく
ひん^{とれい}トレイもペットボトル^{べつとぼとる}
もいっしょにごみばこにす
てていたよ。

いそいで、おかあさん
におしえてあげなくちゃ。」
ゆきちゃんとけんくんは、
たのまれたたまごをかって、
いえにかえりました。



「ただいまー。」

「おかえりなさい。」

いえにかえると、ちょうど
おかあさんがしょくひん
トレイをゴミばこにすてて
いるところでした。

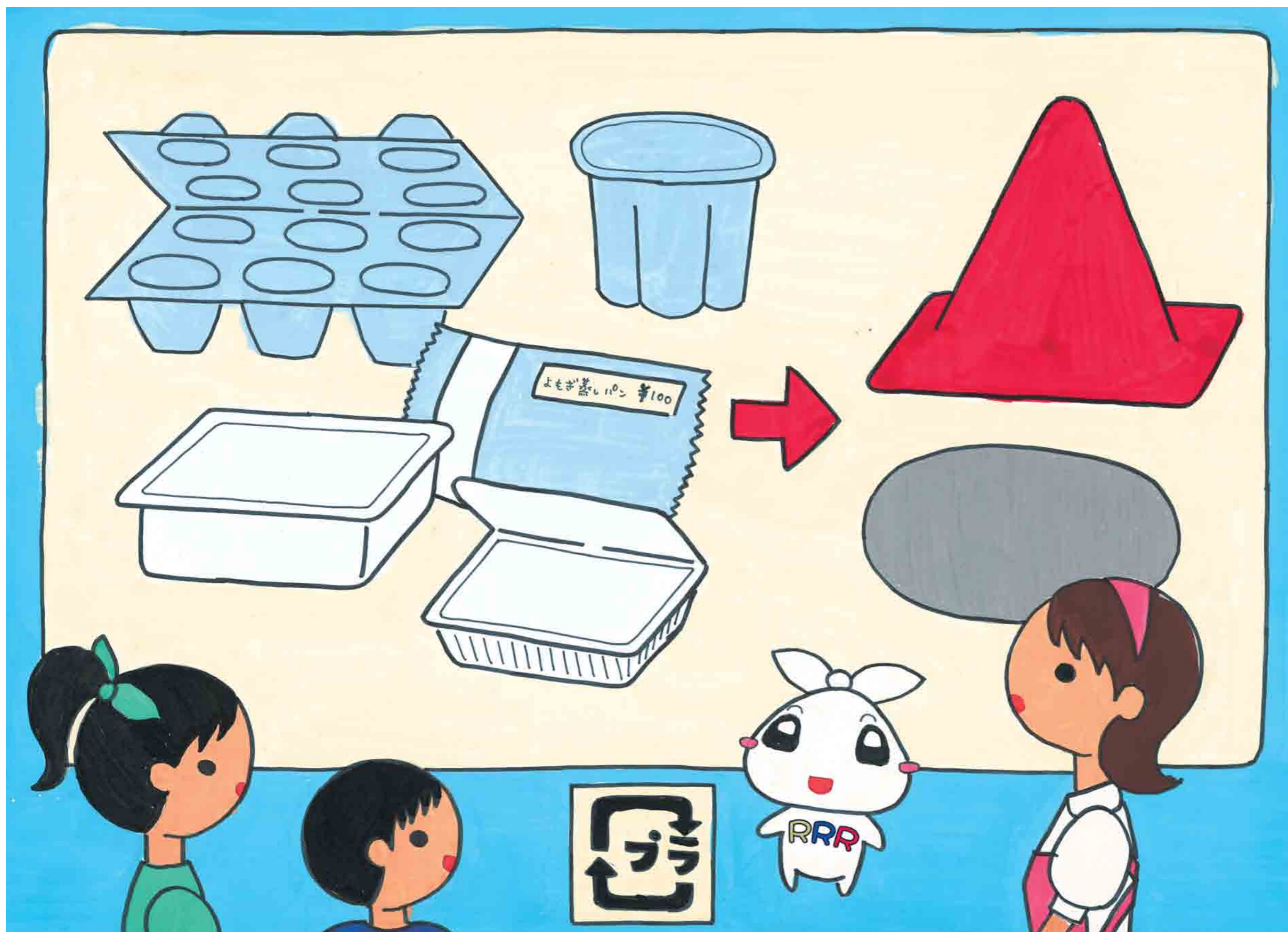
「おかあさん、

それゴミじゃないよ！」

おかあさんは、ゆきちゃん

のはなしをきいて、

おどろきました。



りーちゃんは、おかあさん
におしえてあげました。

「さっきかってきた
たまごの^ぼパックもなっとう
や^ぷプリンのはいってたいれ
ものも『ごみ』じゃないん
です。

『^ぶプラ』^まマークがついてい
るでしょう？

このマークがついているも
のもきれいにして、きちん
とわけてだしてもらえれば、
たとえば、うんどうかいで
つかう^こコーンや、^{まん}マンホー
ルのふたなどに、うまれか
わることができるのです。」

すると、おかあさんはおど
ろいていました。

「へえー！ そうなのね。

これからは、なんでもすて
ないで^りリサイクルするわ。」



ゆきちゃんとけんくんの
はじめてのおかいもの。
りーちゃんに^{りさいくる}リサイクルの
ことをおしえてもらって
おかあさんもびっくり。
みんながいく^{スーパー}スーパーやほ
いくえんにも^{りさいくる}リサイクル
^{ボックス}ボックスがあるかさがして
みてください。
そして、おうちのひとにも
おしえてあげてください。

おしまい